広川町 全戸配布

＜ 稲 む ら の 火 の 館 ＞

や か た だ よ り

第49号 H26・5

稲むらの火の里 濱口梧陵生誕地

館長就任のご挨拶

この度、4月１日付けで『稲むらの火の館』の館長に任命されました。よろしくお願い申しあ上げます。

『稲むらの火』は今や津波防災のシンボル的存在に見られています。特に、東日本大震災による大津波を目の当たりにして、あらためて『濱口梧陵』のあの日の行動が見直され、評価されています。『梧陵さん』の危機管理をお手本とすることがすばやい復旧・復興へと繋がっていくことだと確信しています。

『稲むらの火の館』のスタッフ一同と共に、『梧陵さん』のなされた偉業と『稲むらの火』の思想をお伝えする為に精一杯努力して参ります。一方、『稲むらの火の館』は多くのボランティアの皆様に支えられています。こうした皆様のお力添えをいただき、全国各地から外国からも来られるお客様に、心からのおもてなしをするために、力を合わせて取り組んで参ります。

皆様のご協力もお願い申し上げ、館長就任の挨拶とさせていただきます。

崎 山 光 一

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

稲むらの火の館日記

【4月某日】

朝、10時の通常開館時間より早く、『館』前の駐車場に大きなバイクが並びました。あまり見たことのないようなバイクが25台でした。駐車場がほぼ満車状態になりました。

珍しい大型のバイクがたくさん止まっているので、前の道を通る人達も珍しそうに眺めながら通って行きました。

このバイクグループのリーダーさんは、「バイクを使って、災害時に救援等の活動をするためのネットワークづくりを考えているが、この防災施設からも情報をいただけたら有難いが。」と言っていました。

《梧陵さんのエピソード》

〔松山棟庵談〕

梧陵さんはそばが好きで、わざわざ本所辺りまで食べに行った事がある。私もよく狸そばを食べにつれて行かれた。

〔大阪屋宇兵衛談〕

梧陵さんはそばを食べる為に、一里位ある田舎などへ時々人をつれて出かけた事お出でになった時など、私の妻に向い、お安、灸を据えてくれ、そばをご馳走してやるから、などと言って、灸をすえた後で沢山そばを取り、御自分でもザルを15位平らげて平気な顔をして居られました。

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

濱口梧陵と稲むらの火は！！

『稲むらの火の館』がオープンして、早や7年が経過しました。昨年7月には入館者が20万人を突破しました。ここ3年間は、毎年4万人を越えています。広川町の人口の5倍以上の方々が来られているとはたいへんなことですね。

もちろん、3年前の『東日本大震災』による津波防災に関心を持たれた多くの人々が来られたのだと思います。又、小学校の教科書に掲載されたことも、その理由の一つでしょう

テレビでは、NHKやTBS等々、この3年間に何回も放送されました。東京から新聞取材に来られたこともありました。何冊かの書籍も発刊されました。

このチラシのように、講演会やシンポジウム等も開催されました。

『濱口梧陵さん』と「稲むらの火』は、たいへんな注目を集めています。その舞台である広川町に住んでいることを、たいへん誇りに思いますよね。

皆様、今一度『稲むらの火の館』へお越し下さり、『濱口梧陵さん』を『稲むらの火』『津波防災』を考えてみてください。

裏面も読んでね

広川町 ２面 ＜稲むらの火の館＞ やかただより 第49号 H26･5 いざという時 あなたは！

安政元年海嘯の実況

濱口梧陵手記

嘉永7年寅（改元あって安政となる）11月4日4ツ刻（午前10時）強震す。震止みて後直ちに、岸に馳せ行き海面を眺むるに、波動く模様常ならず海水忽ちに増し、忽ち減ずる事六、七尺、潮流の衝突は大埠頭の先に当り、黒き高浪を現出す、其状実に怖るべし。

伝え聞く、大震の後往々海嘯の襲い来るありと依って村民一統を警戒し、家財の大半を高所に運ばせ、老幼婦女を氏神八幡境内に立ち退かしめ、強壮気丈の者を引き連れて再び海辺に至れば、潮の強揺依然として、打ち寄する波は大埠頭を没し、碇泊の小舟岩石に触れ、或いは破れ覆るものあるを見る。斯くて夕刻に及び、潮勢反って其の力を減じ、夜に入って常に復す。然れども民家の十中八九は空家なるを以て、盗難火災を戒めんがため、強壮の者三十余名を三分し、終夜村内或いは海辺を巡視せしめ、且つ立退きの老幼婦女に粥を分与し、僅かに一夜の糧に充てしむ。

（以下次号）

≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒≒

《今、やかたでは》

『やかた』では、少しですが関連する書籍を販売しています。

『時代を切り開いた世界の10人　⑩浜口儀兵衛』
価格　1600円＋消費税
※　小学生にも分かるように書かれているので、参考書になるかも。

『津波救国　稲むらの火　浜口梧陵伝』
価格　1800円＋消費税
※　新しい情報もあり、読みごたえのある本です。

《お客様の声》

① 3D映像がすごかったです。
（館内のお客様投書箱から）

② 梧陵さん、醤油屋さんの社長さんだったんですね。息子は、昨年国語で習っていて、子供の方がよく知っていました。
防災センターも立派で、今日はとても勉強になりました。
（6年生の子供連れのお母さん）

③ この近くには、よく来るのですが、ここへ（稲むらの火の館）は、はじめてです。梧陵さんの話も聞けて良かったです。
（奈良からの男性）

④ 大下英治さんの書かれた本「津波救国」の最後に書かれている参考文献は、全部ここにあるのですか。こうした本の基本は『杉村楚人冠』の『濱口梧陵伝』だと思うのですが、それもここにはあるのですか。
（関東方面から来られた男性）

桜満開の『広村堤防』（H26.4.1）

＜稲むらの火の館の紹介＞
濱口梧陵記念館／津波防災教育センター
〒643-0071　住所　広川町広671
TEL：0737-64-1760／FAX：0737-64-1761
http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/
*開館時間：午前10時～午後５時（受付終了４時）
*休館日：月曜日・火曜日（祝日開館）
年末年始（12/29~1/4）
*記念館だけの入場は無料です。